見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

February 2018

vol.46

February						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

◆ 安久美神戸神明社（あくみかんべしんめいしゃ）

所在地：豊橋市八町通

交　通：豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」停 すぐ

豊橋公園のすぐ南に位置する安久美神戸神明社は、国の重要無形民俗文化財である、天下の奇祭「鬼祭」の舞台となる神社です（裏面参照）。

天慶 3（940）年、平将門の乱の平定に際して、朱雀天皇より伊勢神宮に三河国の飽海荘（あくみのしょう）が寄進された際に、この地の繁栄を祈願し天照皇大神が奉じられたのが神社の始まりと言われ、戦国時代には三河国を治めた今川氏が篤い信仰を寄せ、社殿の造営などに尽力しました。（現在、鬼祭で用いられている赤鬼と天狗の御面は、昭和 15（1940）年に神社創建 1 千年と皇紀 2600 年を祝って作られたものですが、それまでの御面は今川義元が寄進したものと言われています。）

その後、永生 2（1505）年には、吉田城の築城に合わせて社殿の改築が行われ、城内神明宮として奉じられることとなり、以来、歴代城主の庇護を受けて、明治時代まで引き継がれてきました。明治 18（1805）年、旧社地（現豊橋公園）が陸軍用地となったため、現在の地に奉遷されています。現在の社殿は昭和 5(1930)年に造営されたもので、平成 22 年には国の登録有形文化財に指定されました。

安久美神戸神明社では、地震による被害の記録はあまり残されていませんが、宝永 4（1707）年の宝永地震では「神明社の石の鳥居も矢張其十月四日未の刻の大地震に倒壊した」ことが豊橋市史談（大正 5 年）に記されています。また、昭和 19（1944）年の昭和東南海地震の際の様子は、「拝殿の扉が二、三ヶ所半開き状態になり、社務所は東へ傾き、戸障子も所々外れ、壁土が大分落下しておった。しかし、倒れる心配はなさそうであったが、石燈籠は大半倒れておった。しかるに、本殿はじめ御社殿が少しも傾き又損傷のないのは、建築の清巧なるによることと敬服した次第である。」と、安久美神戸神明社千年誌（昭和 49 年）に残されており、本殿などには被害がなかったことがうかがえます。

このように、昭和 19 年の昭和東南海地震まで、地震による目立った被害の記録のない神明社の建物ですが、その後の昭和 36 年に建築された儀式殿は、平成 28 年に公開で耐震診断が行われており、耐震性に不安がある結果となったことが記事になっています（平成 28 年 9 月 17 日付　中日新聞など）。耐震診断は、儀式殿の 2 階と外部に揺れを計測する地震計センサーを設置し、車の通過などによる地盤の常時の揺れによる建物の揺れから大地震時の揺れの特性を判定する方法により行われ、診断の結果、震度 6 ～ 7 の地震で「倒壊の危険あり」という診断結果となりました。儀式殿は現在でも、鬼祭での準備などとして利用されており、記事では、今後の活用方法の検討に合わせて改修や改築の検討を行うこととされています。

◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

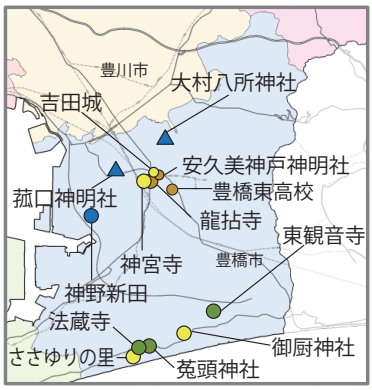
◆ 安久美神戸神明社の周辺には…

● 龍拈寺（りゅうねんじ）（観音像）

所在地：豊橋市新吉町

交　通：豊橋鉄道市内線「札木」停 東 約 400m

昭和 19 年昭和東南海地震によって犠牲となった、豊橋高等女学校（現・豊橋東高校）23 名と愛知実修高等女学校 4 名の学徒を悼む観音像（写真左）が、昭和 32 年に建立されました。なお、豊橋東高校にも、豊橋高等女学校の犠牲者 23 名を悼む記念碑（写真右）が建立されています。



● 神宮寺（願かけ地蔵）

所在地：豊橋市魚町神宮寺

交　通：豊橋鉄道市内線「札木」停 南 約 150m

嘉永 7 年（1854）安政東海地震の際、神宮寺の地蔵菩薩が幼女の身代わりとなって命を救ったという話から、信仰を集めるようになりました。このため、願かけ地蔵ともよばれています。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をご覧ください。

★ 豊橋鬼祭

安久美神戸神明社では、毎年 2 月 10 日、11 日に天下の奇祭･鬼祭（豊橋鬼祭）が行われます。鬼祭は、平安から鎌倉時代に流行した田楽に日本建国の神話を取り入れて神事としたもので、農作物の豊作を祈るために行われてきたと言われ、古式を崩さず受け継がれる貴重な祭りとして、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

祭礼は二日間にわたり、様々な行事が行われますが、クライマックスは「赤鬼と天狗のからかい」で、いたずらをする赤鬼とそれを懲らしめる武神の天狗が秘術を尽くして戦い、やがて敗北した赤鬼が、自らの罪・けがれを清め償うために白い粉とタンキリ飴を撒きながら神明社を出て、町の中を巡ります。この粉を浴びタンキリ飴を食べると、厄除けとなり夏病みをしないと言われています。

豊橋観光コンベンション協会 HP より

2 月のあいちの花

みんなの園芸 HP より

平成 30 年 2 月のあいちの花はリーガースベゴニアです。リーガースベゴニアは、球根ベゴニアとベゴニア・ソコトラナとの交配により作り出された園芸品種で、品種の総称はエラチオールベゴニアです。旧西ドイツのオットー・リーガー氏によって、病気や暑さに強い品種が作り出され広く普及するようになったことから、リーガースベゴニアと呼ばれています。

白、赤、黄、ピンク、オレンジの色に一重や八重の花弁など、多くの品種があり、真夏を除いてほぼ一年中流通しています。

●ブレイクタイム●

♪ 豊橋の路面電車

豊橋市には東海地区で唯一の路面電車が走っています。大正 14（1925）年に開通し、現在の営業距離は 5.4km で、路面電車としては日本で唯一国道(1 号)を走る区間があり、また日本一急なカーブ（井原停留所付近、半径 11m）もあります。平成 20 年には、バリアフリーに対応した純国産の全面低床電車「ほっトラム」が導入されました。

夏は「納涼ビール電車」、冬は「おでんしゃ」（2016.12 月号参照）が走り、豊橋の季節の風物詩としても親しまれています。

豊橋観光コンベンション協会 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　平成 30 年 2 月）